



**pro skill** report

先天的脳発達に見る多重知能および特質分析

**ProSkillプロスキル能力識別**  
**Performance Potential Report**

HeroHelpMe Platform (SA20181536)

**わたしの才能・強みを発見！**  
**～指紋は脳を語ります～**

- ❖ お子さまの生来の特徴を理解したい。
- ❖ お子さまの相性の良い学習スタイルと先天的な知能等を理解したい。
- ❖ お子さまの隠れた才能とポテンシャルを理解したい。
- ❖ お子さまに相応しい教育方法を見つけたい、最善の学習環境を計画したい。
- ❖ 大人の選択。自分に向けたキャリアは何？

詳細は、プロスキル代理店にお気軽にお問い合わせください。



Scan me



**pro skill** report

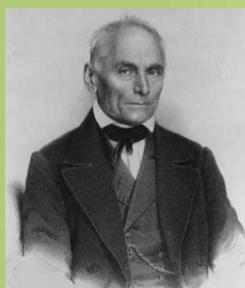
先天的脳発達に見る多重知能および特質分析



# 歴史と由来

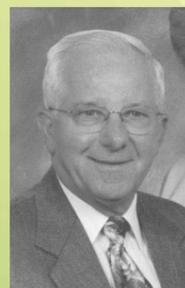
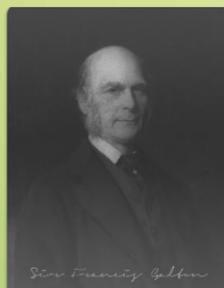
脳と遺伝指紋学者が長年の研究、統計、分析、比較データを通じて、両手の指の指紋は脳の知能に密接な相関関係で繋がっていると確認しました。  
現在、DMITソフトを通じて慎重に分析すると、先天的な知能を弾き出す事が出来ます。

- 1880 ヘンリー・フォールズ (Henry Faulds, 1843-1930) は、イギリスの医師、指紋研究者である。個人の識別に指紋を用いることができるという記事を1880年『ネイチャー』に発表した。指紋研究を誰が最初に行ったかについて、ウィリアム・ジェームズ・ハーシェル、フランシス・ゴルトンと争った。
- 1892 フランシス・ゴルトン (Sir Francis Galton, 1822-1911) は、イギリスの人類学者、統計学者、探検家、初期の遺伝学者である。著書の『The Finger Print (フィンガープリント)』で、渦状紋、蹄状紋、弓状紋の3種類の指紋の基本的な分類を最初に提案しました。
- 1902 ハリス・ホーソン・ワイルダー (Dr. Harris Hawthorne Wilder, 1864-1928) は、アメリカの人類学者である。遺伝学の研究で、完全な指紋測定システムの基礎を築きはじめた。
- 1926 ハロルド・カミンズ (Dr. Cummins, 1893-1976) は、アメリカの解剖学者および皮膚科の専門家である。遺伝指紋学『Dermatoglyphics』の創始者であると考えられている。
- 1944 ジュリアス・スピア (Dr. Julius Spier, 1887-1942) は、ドイツの精神分析医であり精神心理学の創始者である。「The Hands of Children (子供の両手)」を出版した。本のいくつかの議論は、指の指紋のパターンから子供の知能発達が早期に検出または確認できることを証明している。
- 1950 アメリカの外科医ペンフィールドは、「脳と身体のさまざまな部分の関係の断面」という論文を発表し、指紋と脳の密接な関係を示した。
- 1963 ウォーカー教授は、ダウン症候群のマーカーである『Dermatoglyphics Index (遺伝指紋インデックス)』を最初に設定した。長年の科学的研究の結果、「脳および染色体異常のある多くの患者は、特別な指紋テクスチャーを持っている」ことが証明された。
- 1967 『国際遺伝指紋研究会議』がイギリスのロンドンで開催され、隆起の三角形と隆起密度の量子化のルールを含む指紋パターン分類の測定方法が決定された。
- 1970 旧ソビエト連邦は、オリンピック選手を選別するために遺伝指紋測定技術を採用した。実際、1972年と1976年のオリンピックでソビエト連邦はいくつかの金メダルを獲得した。
- 1981 ロジャー・ウォルコット・スペリー (Roger Wolcott Sperry, 1913-1994) はアメリカ合衆国の神経心理学者である。てんかん治療の目的で半球間脳の信号伝達を行っている脳梁を切断した患者に、片方の脳半球に依存することが知られる作業が行えた事から、二つの脳半球がそれぞれ独立した意識を持っていることを実証した。この研究は生物医学でノーベル賞を受賞した。
- Now 多くの代表的な研究専門家は、人類学、解剖学、医学の観点から研究結果と論文を発表し、両手の指の指紋と脳の間密接な相関関係で繋がっていると証明した。



Evangelista Purkinje  
(1787-1869)

Sir Francis Galton  
(1822-1911)



DR Harold Cummins  
(1894-1976)

遺伝指紋学の創始者



遺伝学者によると、**12~19週目**までの胚胎周期に、両手の指の指紋は脳と共に成長し、一旦成型したら変化しません。

左手は右脳に、右手は左脳に、密接な相関関係で繋がっています。両手の指の指紋データを収集し、『DMIT (Dermatoglyphics Multiple Intelligences Test)』ソフトを通じて分析すると、先天的な知能を弾き出す事が出来ます。

**ProSkillプロスキル**とは、**プロ** (強み) と**スキル** (才能) の組み合わせ、DMITソフトを通じて分析する能力識別レポートです。

10の先天的なスキルの強みと欠点、8つの多重知能の強さ、最強の学習スタイル、**DGISC**五種類の先天的な性格と特徴の分析データなどがレポートに収録されています。分析データによって、相応しい学習やキャリア、趣味、アクティビティの提案も提供されています。

## ProSkillプロスキルの効果的な活用シーン~パフォーマンス最大化を支援します!

### 幼稚園/小・中・大学生

❖ 子供の学習スタイル、先天的な性格と特徴、知能の強みと欠点などの理解を通じて、両親は無駄な時間やコストを減らし、相応しい教育方法を採用し最善の学習環境を計画する事が出来ます。

❖ 各人にとって相性の良いアクティビティや、将来を見据えた大学への相応しいコース選択の参考資料となります。

### 個人/夫婦/家族

○ 個人的な学習スタイル、傾向、洞察力、知能の強みなどを理解し、自分に合ったキャリアを見つけます。

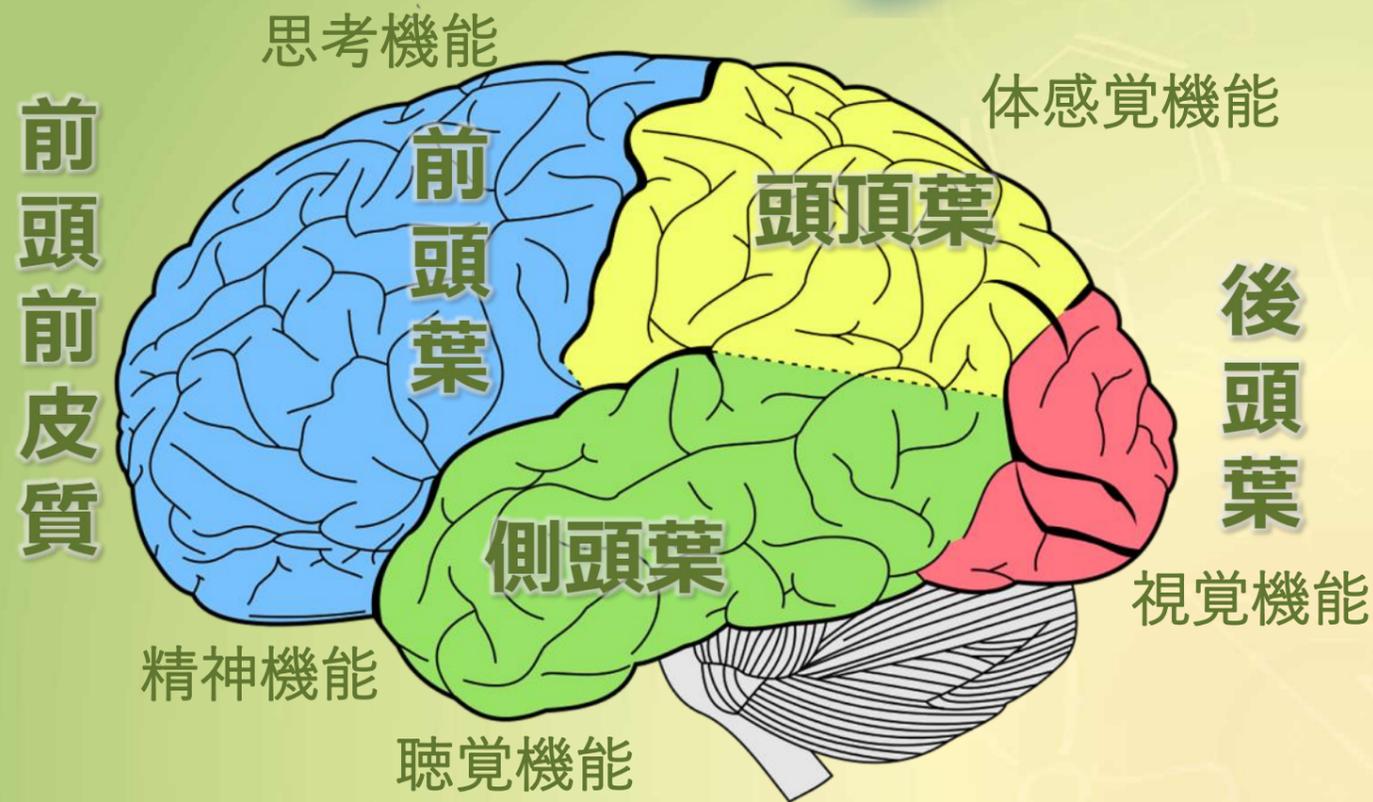
○ 先天的な性格と特徴を理解し、夫婦や家族との人間関係が改善することができます。

### チーム/小・中・大企業

○ 従業員またはパートナーのスタイル、仕事の特徴及び知能の強みと欠点を理解し、相応しい人材を採用し、最高の成果を達成することができます。

○ チームの仲間の個人性格と特徴そして知能の強みを理解し、最適なポジションに置いて最強なチームを作ることができます。

# 左右脳機能



大脳皮質	左脳機能	右脳機能
前頭前皮質 (モチベーション)	マネジメント	リーダーシップ
前頭葉 (プランニング)	論理的思考力	空間的想像力
頭頂葉 (体感覚)	身体組織制御力	身体統合能力
側頭葉 (聴覚)	言語解読力	音感のセンス
後頭葉 (視覚)	詳細観察力	美感のセンス

**右拇指 | マネジメント**  
自己反省、合理的思考、自己管理、計画判断、物事のやり方、意思決定、内省的性質。

**右人差し指 | 論理的思考力**  
分析能力、数値概念、計算理解、処理手順。

**右中指 | 身体組織制御力**  
指の器用さ、細かい部分の筋肉の制御、繊細な動きの分類と組み合わせにも、個人の組織能力が関係してる。

**右薬指 | 言語解読力**  
短期記憶または言語記憶、言語または音声表現による意味の理解。

**右小指 | 詳細観察力**  
オブジェクトの形状とサイズの視覚認識、テキストの理解と読解能力。

**リーダーシップ | 左拇指**  
目標、リーダーシップ、対人関係、ビジョン作成、感情表現、直感、情報の受信と統合、外交的性質。

**空間的想像力 | 左人差し指**  
想像力、空間的思考、アートや画像を視覚化する能力。

**身体統合能力 | 左中指**  
全身の筋肉のコーディネーション、身体空間の感覚やリズム、協調運動、広範囲の筋肉を制御する能力。

**音感のセンス | 左薬指**  
ピッチ、音声メロディなどのレベルを含み、感情を表現、音を感じる能力。

**美感のセンス | 左小指**  
画像鑑賞、視覚体験、色の美しさを含み、写真や視覚情報を受信または感じる能力。

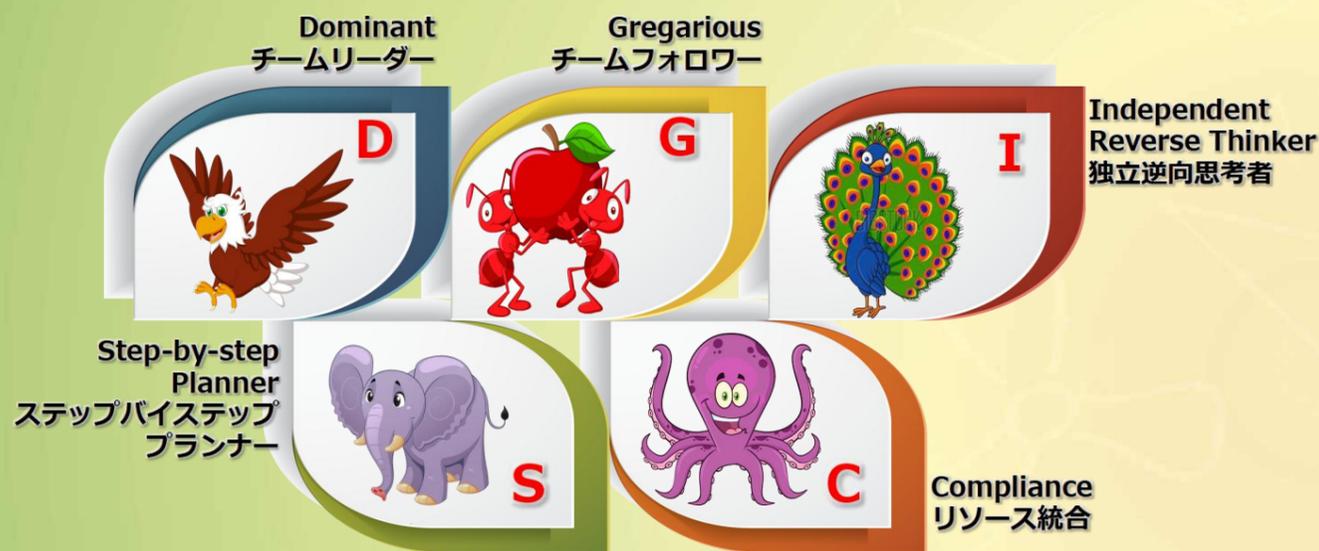


# 性格と知能

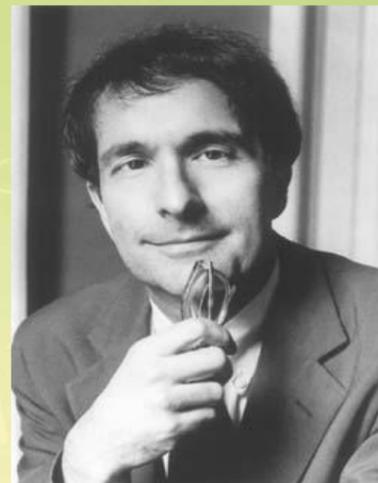
DGISCとは、先天的な性格と特質を分析するツールで、人間をD-G-I-S-Cの5つの基本スタイルの観点で解説しています。人間は複雑な特質を持っており、外向的性質のリーダーシップ面と内向的性質のマネージメント面では、現れる能力が異なります。

DGISCを活用して「人間の動機や欲求を理解することで相互理解を深め、人間関係を向上させる」事が、人材開発・組織開発面で有効で組織全体を強くすることに貢献します。

リーダーシップ、マネジメント、セールス、コミュニケーションにおいて、より効果的な対人関係を築くことができます。DGISC分析データによって、自分自身の欲求や行動に関する理解だけでなく、周囲の人々の動機や欲求についても、理解を深めることができます。



- ❖ **イーグル属性:** 自己中心的、厳格、頑固、明確なターゲットを持つ、チャレンジングを好む、やる気満々、ポジティブ、耐圧性が強い、持久力が高い、諦めにくい、優れたロジック管理能力、優れた分析と計画、完璧を求める、専門知識を重視する、自発性が強い、自己実現と要求が高い。
- ❖ **アリ属性:** 人々との交流を好む、情緒を重視する、共感性が強い、センシティブ、チームのような活動への参加を好む、熟練まで時間かかる、耐圧性が弱い、決断力が弱い、アシスタント能力が強い、自己規律管理が弱い、管理とリマインドが必要、自己反省が弱い、自分の感情に影響される場合が多い。
- ❖ **孔雀属性:** 観察力が鋭い、クリエイティビティが強い、アイデアがユニーク、新奇なモノを求める、センシティブ、チームのような活動への参加を好む、反論を好む、問答の追求が強い、自己中心、セルフスタイル、単独作業を好む、伝統の踏襲を嫌う、堅苦しいルールを守りにくい。
- ❖ **象属性:** 言葉の表現が苦手、内気、受動的なタイプ、規律性が高い作業を好む、ステップバイステップタイプ、明確な範囲と指示内容があれば作業できる、学習プロセス中に反復演習が必要、認知範囲以外のモノに不安を感じる、保守的、厳格、反論しない、企みを好まない、冒険を好まない、推理・論理を好まない、優れた執行者、柔軟性が低い。
- ❖ **タコ属性:** 統合力が強い、高い順応性、高い弾力性、パブリック・リレーションズが得意、二つ以上のターゲットを同時に進行できる、多面的な考え方、好奇心が強い、変化・多元化を好む、斬新なものを受け入れやすい、幅広い分野に興味を持つ、自己規律管理はグレーゾーンも存在、変化に乏しい仕事よりチャレンジを好む。

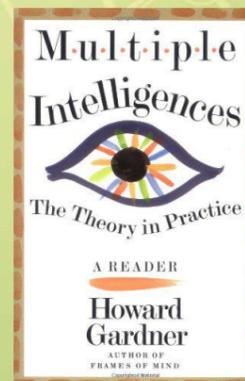


ハーバード大学教育学大学院教授で、心理学の世界的権威であるハワード・ガードナー教授が、授業や研修での座学といった一般的なものととられない、学習法を提唱しています。これが「個性」に適した学習アプローチです。

ハワード教授は、従来のIQテストに異議を唱え、人にはいくつもの多重的な「MI (マルチプル・インテリジェンス) 知能」があると主張しました。MI理論によると、人間は普段「8つの能力」を働かせて生活しているといえます。これらの中でも特に秀でている部分や得意分野があり、自分の持つ8つの能力を見極め、個性に適したアプローチで学習をすると、人は才能を最大限に伸ばすことができるといいます。

DMITソフトの指紋測定技術を通じて慎重に分析すると、先天的なMI知能の優位性を弾き出す事が出来ます。

- 1. Linguistic Intelligence 言語的知能**  
言語的知能は心にあるものを表現し、他人を理解するために自国語、他国語を使う能力である。詩人は言語的知能に特出しており、この他にも、政治家、弁護士なども高い言語的知能を持っている。
- 2. Logical-mathematical Intelligence 論理・数学的知能**  
理論・数学的知能が高度に開発された人は、ある因果システムに介入する法則を科学者又は理論的な方法で理解することができ、数字、量を数学的に操作する。
- 3. Musical Intelligence 音楽的知能**  
音楽的知能は音楽で考える能力で、パターンを聞くことができ、認識したり、覚えたり、巧みに扱うことができる。音楽的知能の強い人達はただ容易に音楽を覚えられるのではなく、彼らの意識から音楽を切り離せられないのであり、いつでもどこにいても音楽的感性はベースにある。
- 4. Spatial Intelligence 空間的知能**  
空間的知能は、心の中に空間的世界を再現する能力すなわち、航海士や飛行機のパイロットが大きな空間世界を航行し、チェスプレイヤーや彫刻家が線で取り囲んだ空間的世界で再現する能力である。空間的知能は芸術や科学において使われ、空間的知能があり、そして芸術に向いている人は、音楽家や著述家より画家か彫刻家または建築家が向くであろう。同様に解剖学、位相幾何学のような科学でも空間的知能が重要になる。
- 5. Bodily-Kinesthetic Intelligence 身体運動感覚的知能**  
身体の運動感覚知能は、問題を解き、何かの物作りをするために、体の全体または一部、手、指、腕を使う能力である。もっとも明らかな例は運動競技選手や特にダンスや舞台の演技者にある。
- 6. Interpersonal Intelligence 対人的知能**  
対人的知能は、他の人を理解する知能である。この能力は我々全ての人に必要であるが、教師、医者、セールスマン、政治家には大いに必要である。誰でも他の人と取引をし、関係を結ぶとき、人はこの領域で熟練を必要とする。
- 7. Intra-personal Intelligence 内省的知能**  
内省的知能は、自分が誰か、何が出来るか、何をしたいか、物事にどう反応するか、何を避けようとするか、何に惹かれるかといった自分自身を理解することである。我々は自分自身を良く理解している人々に惹かれ、それらの人々は大きな間違いをしない傾向にあり、自分か何をする事が出来るかを知っている。そして、自分に何が出来ないか、助けが必要な場合にはどこに行くべきかを知っている場合が多い。
- 8. Naturalist Intelligence 博物学的知能**  
博物学的知能は人間の自然の世界における雲や岩の形状などの特徴への感度だけでなく、植物、動物など生物間の識別能力を示す。この能力は猟師、収集者、農民としての我々の進化論の過去において、明確に価値のあるものであった。それは植物学者又はシェフとしての役割において、中心的能力を構成するものとして継続している。私は我々の消費者社会の多くはこの知能を活用していると見ている。そして、博物学的インテリジェンスは車、スニーカー、化粧品等々の商品群の識別や選別において動員されている。ある科学分野で価値を評価されているパターン認識もこの知性の活用を想起させる。強い博物学的知能を持つ博物学者は、自分の環境において、多数の種、つまり動植物を見分けて分類する優れた能力を発揮する。



# お客様の声



ELAINE YAP  
美容師

エレイン・ヤップ  
美容師

私の娘はまだ幼く、何の才能が眠っているのかわかりませんが...

彼女は何に向いているのか知りたいたいです。でも、他の親達のように、子どもにたくさん習い事をさせたくはないです。

子どもにストレスを与えてしまうし、お金も無駄になるかもしれませんから。プロスキルレポートのことは「指紋測定をして子供の強みを見つけよう」という広告で偶然知りました。

娘の才能とポテンシャルを知りたくて、測定を受けました。分析の結果、娘には音楽分野に潜在的能力があることが分かりました。ですので、音楽分野で娘の才能をじっくり育もうと思います。これは親として試す価値はあると思いましたので、友人に紹介しその子どもにも指紋測定を受けました。

ラーマン大学生（経済学部）  
頼佑田（ユテン・ライ）

中学生の頃は、文系・理系の選択に迷っていました。

今はラーマン大学でファイナンスを専攻していますが、DMITというテストを受けて、間違った選択をしていなかった事がわかり、より自信を持ちました。

大学生はみんな、僕のようにテストを受けて進路決定の参考にしたほうがよいと思います。なぜなら、僕らの未来にとって非常に有益ですから。



拉曼大学生(経済系)  
頼佑田

大学生はみんな、僕のようにテストを受けて進路決定の参考にしたほうがよいと思います。

ブライトキッズ幼稚園院長  
ダヴィド・タン

私は皮紋学という名称を初めて聞いたので、最初はあまり確信を持っていませんでした。

ですのでまずはテストとして、園児二人と彼らの両親を呼び指紋の測定を受けてもらいました。

すると出てきた結果があまりにも正確で有益な内容だったので、私たちは大変驚きました。特に子どもらの両親にとっては！

子どもの潜在的な能力、ポテンシャル、強みと弱みを知ることは、非常に有益だと思います。

また、レポートからは子どもの学習スタイルや先天的な性格なども知ることができますので、相応しい教育スタイルを計画するのにとても役立ちますね。

だから、私は親御さん達にこうアドバイスしたいですね。「子どもには早めに指紋測定を受けてもらい、それぞれの持つ才能とポテンシャルに早く気付いてあげたほうが良いです。子ども達がより輝く未来につながりますから」



DAVID TAN  
Founder and Principal  
of Bright Kids

すると出てきた結果があまりにも正確で有益な内容だったので、私たちは大変驚きました。

越後屋治療院院長  
越後 喜一

プロスキルをやらせていただき、自分の特徴がよく理解できました。私は経営者の面があるのですが、マネジメントがとても苦手なのもそのまま結果として出ていました。

そのあと、妻と子供2人と鑑定したのですが、納得がいく結果と、知らない未知の領域の発見があったのがとても面白かったです。

自社のスタッフも鑑定をお願いしましたが、個々の性格と能力にとっても驚きました。それに見合った仕事を割り振り、指導方法も考え直すことができました。

このツールはとても満足いくものです。この分析結果を踏まえて、いろいろなアドバイスや指導方針を作ることができ、できるだけ無駄のない仕事能力を発揮できると確信しています。

“指紋測定は  
一生一回だけの投資”



“早めにお子さんの先天的な知能の強みを  
理解し、より輝く未来につなげましょう”



## ProSkillプロスキルレポートの目録

パート1：

### PROSKILLプロスキル能力識別

- ProSkillプロスキル能力識別システム及び多重知能分析について
- ProSkillプロスキルの効果的な活用シーン  
～パフォーマンス最大化を支援します！
- 遺伝指紋学の発展及び歴史

パート2：

### 指紋と左右脳知能相関分析データ

- 両手の指の指紋パターン
- 大脳機能とポテンシャル
- 10のスキルの強みランキングと詳細
- TFRC値と学習ポテンシャル
- 10のスキルの強みに相応しいアクティビティ

パート3：

### DGISC五種類の先天的な性格と特徴の分析データ

- DGISC分析に見る先天的な性格と特質と詳細
- DGISC分析に見る総合学習スタイルと特質の詳細

パート4：

### 多重知能の分析データおよび相応しいキャリア・教育の提案

- ハワード・ガードナー教授が提唱する  
8つのMI（マルチプル・インテリジェンス）知能
- 先天的なMI多重知能優位
- 相応しいキャリアの提案

$$\frac{\sqrt{AB+CD}}{2} = H^2$$